



シンポジウム
現代によみがえる
七島イ
(蘭)

●日時 2014年 **11月22日(土)** (13:00~16:40)
●会場 **別府大学 32号館 4階 400番教室**

**参加
無料**

〈プログラム〉

- 学長挨拶——豊田 寛三 別府大学学長
- 来賓挨拶——太田 豊彦 大分県副知事

基調講演

『七島イ・七島菴の歴史—近世を中心として—』
豊田 寛三 別府大学学長

事例報告

『七島イの栽培』 ゆめ
「別府大学夢米棚田チーム」学生

シンポジウム

コーディネーター 飯沼 賢司
別府大学文学部長

パネリスト 渡辺 哲也
大分県農林水産部審議監(農政担当)

永井 定明
大分農業文化公園園長

林 浩昭
くにさき七島蘭振興会会長

細田 利彦
くにさき七島蘭振興会事務局長

松原 正
くにさき七島蘭振興会会員・七島イ栽培農家

豊田 寛三
別府大学学長

●閉会挨拶——江崎 一子
別府大学食物栄養科学部長

【主催】 別府大学

【共催】 国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会、くにさき七島蘭振興会、大分県

【問い合わせ先・事務局】 別府大学国際経営学部 准教授 中川 隆
〒874-8501 別府市北石垣82

TEL : 0977-67-0101 FAX : 0977-66-0222 E-Mail : takashi@nm.beppu-u.ac.jp

シンポジウム 現代によみがえる 七島イ (蘭)



【趣旨】

約半世紀前、畳表の材料である七島イは、国東半島一帯・別府湾沿岸地域で広く栽培されていた。5月～8月にかけて植えつけ・収穫と干す作業を行い、畳表に編み上げる作業は夏の風物詩でもあった。しかし、高度経済成長期を境として、七島イはしだいに栽培されなくなり、国東半島のごく一部で栽培されるのみとなった。近年、「七島イ」を見直す機運が高まり、新たに国東地域で数戸の農家はその栽培に取り組むようになった。さらに、昨年5月、国東半島宇佐地域が世界農業遺産に認定された。その特色となる農産物は、椎茸と七島イであった。

さて、別府大学は2010年大分県との間に「大分農業文化公園・別府大学棚田プロジェクト協定」を結び、学生・教職員をメンバーとする「別府大学夢米（ゆめ）棚田チーム」を結成し、大分農業文化公園内の棚田4枚を再生後、米・もち米栽培に取り組んできた。昨年より、七島イ栽培にも取り組んでいる。今回、七島イの歴史・栽培方法及びその商品化について考察し、七島イの価値を再認識するためにこのシンポジウムを企画した。

七島イ(蘭)のランプシェイド

七島イは工芸品として耐久性に優れ、使うほど色が変化していきます。別府大学夢米（ゆめ）棚田チームでは、若者の視点で何か作る事が出来るのではないかと思い、従来の枠にとらわれず様々な作品を作ってみました。

(平成25年度リーダー 文学部 史学・文化財学科4年 白川 優太)



【交通アクセス】

●JRをご利用の方

JR日豊本線別府大学駅下車、徒歩約15分

●バスをご利用の方

JR日豊本線別府駅より亀の井バス別府大学経由鉄輪行に乗車、別府大学前(別大前)下車(所要時間約20分)

駐車場をご用意しておりますが、台数に限りがございます。乗り合いまたは公共交通機関をご利用ください。

